

九頭竜川水系河川事業の 実施状況報告

国土交通省 近畿地方整備局

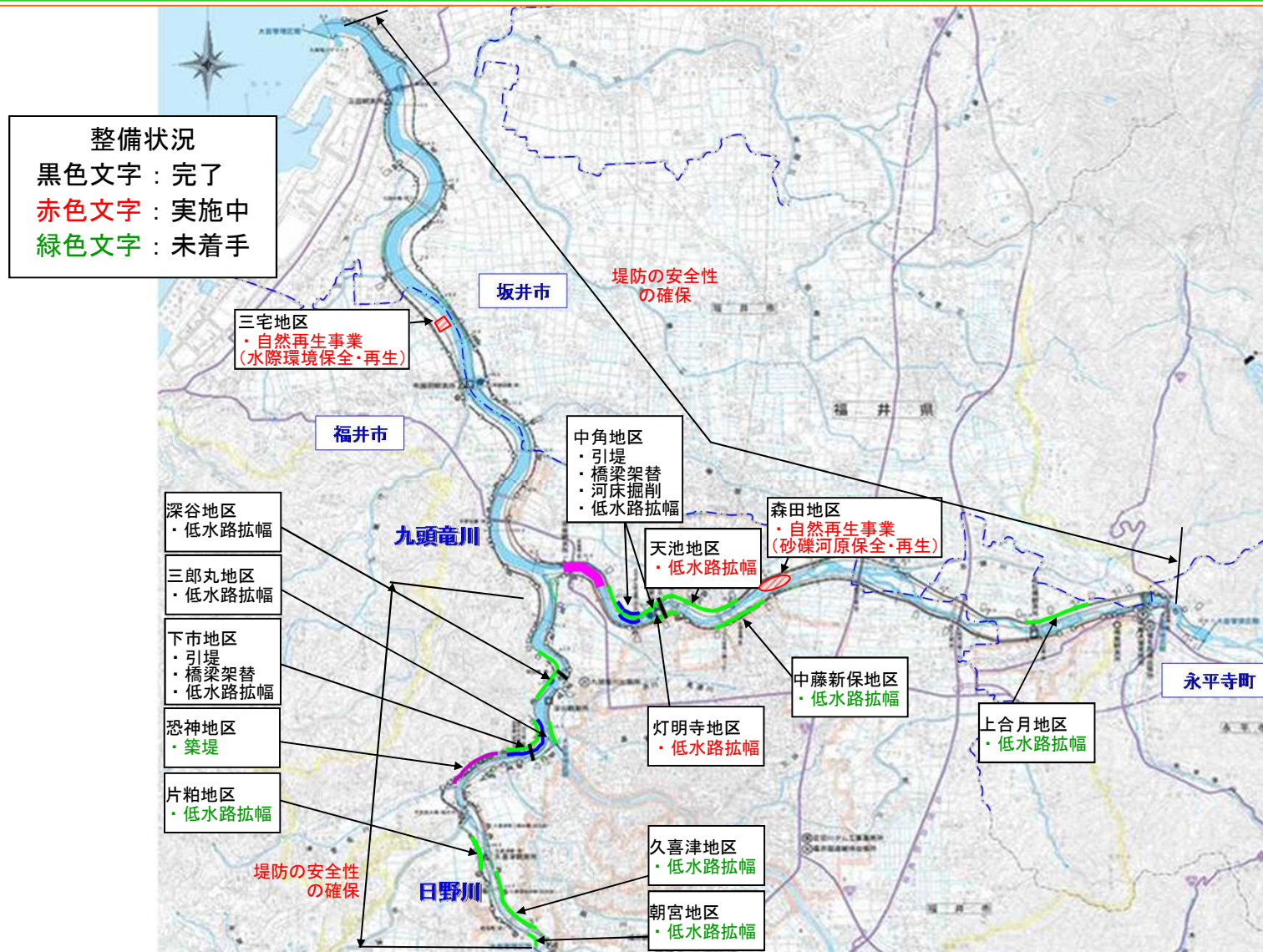
事業概要(位置図)

平成19年2月に九頭竜川水系河川整備計画の策定後、事業が実施されている。

治水に関する事業として、直近では、昭和53年に事業着手した日野川の五大引堤が平成25年5月に完成した。

また、現在では、低水路拡幅（九頭竜川の灯明寺地区、天池地区）、堤防の安全性の確保を実施している。

環境に関する事業として、三宅地区では水際環境保全・再生、森田地区では礫河原保全・再生の各事業を実施している。



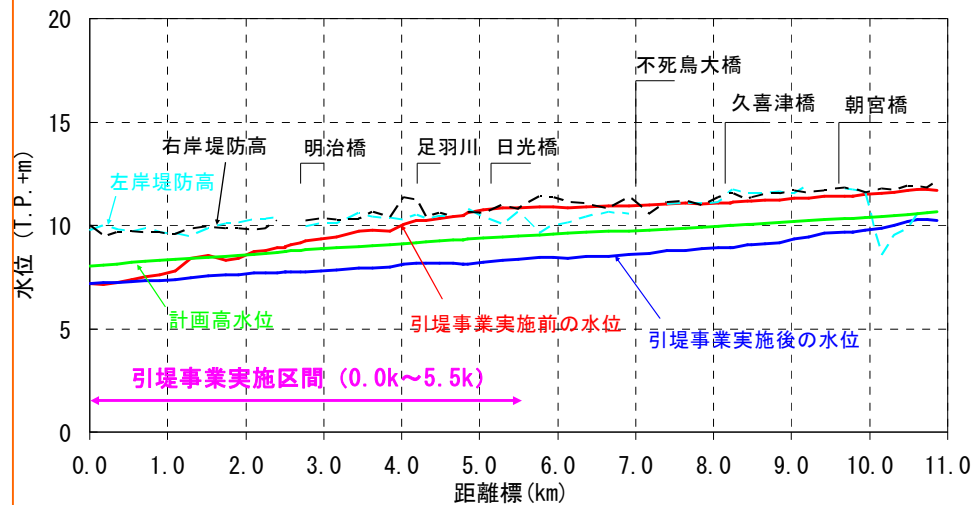
事業概要（日野川五大引堤）

日野川下流部5地区において川幅を拡げ、洪水時の水を流しやすくする引堤事業を実施することとし、昭和53年に着手し、平成25年5月末に完成した。

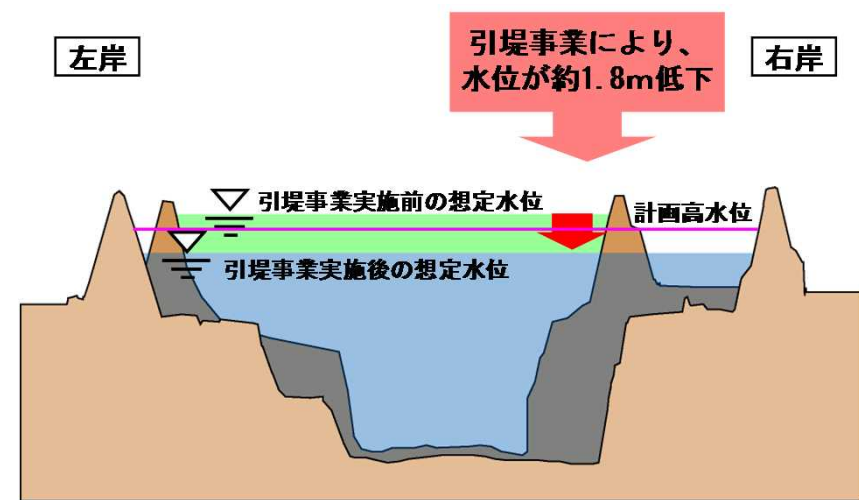
この事業により、流下能力が向上し、深谷地点において4,300m³/sを流下可能となった。

例えば、昭和28年9月洪水が発生した場合、事業実施区間だけでなく、その上流まで水位を計画高水位以下に低減可能となる。

【日野川における水位低減効果(S28.9洪水時)】



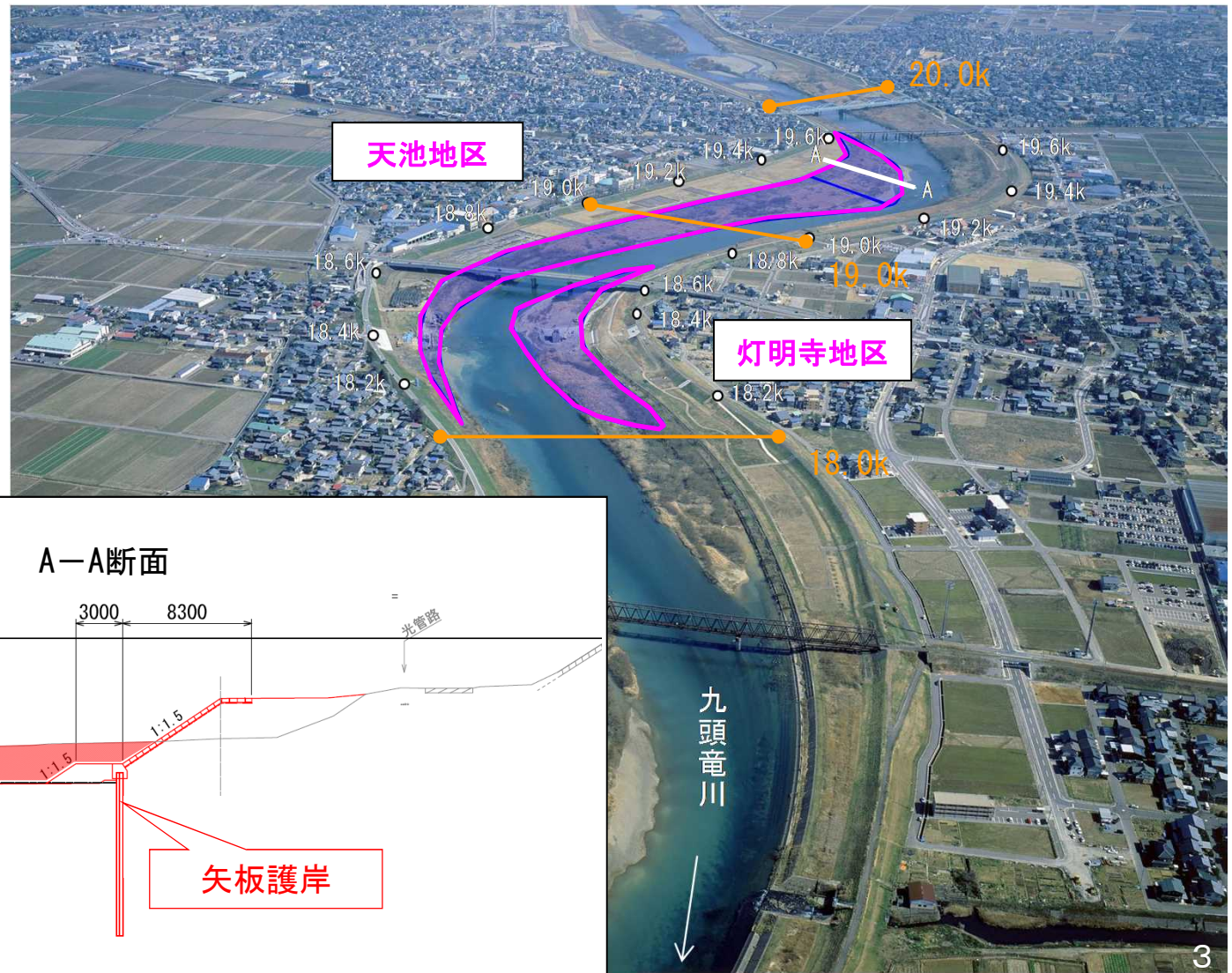
【日野川における水位低減効果(S28.9洪水時 3.8k地点)】



事業概要（灯明寺・天池地区）

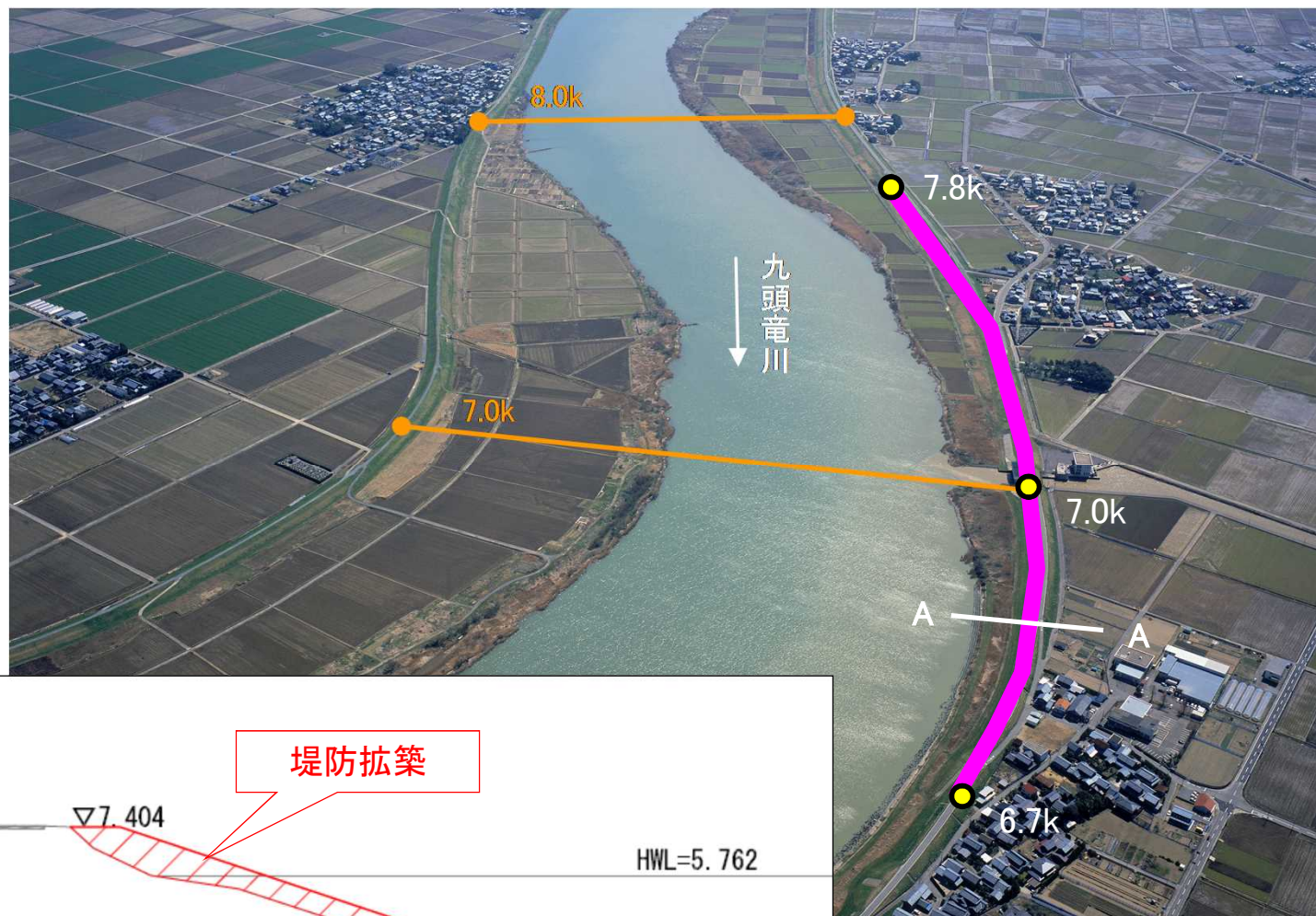
九頭竜川本川の日野川合流点の上流に位置する天池地区においては、計画高水流量（ $5,500\text{m}^3/\text{s}$ ）に対し、現況流下能力は $4,000\text{m}^3/\text{s}$ と不足しているため、河道掘削と護岸工事をを行い流下能力を確保する。

灯明寺地区においても計画高水流量（ $5,500\text{m}^3/\text{s}$ ）に対し、現況流下能力は $4,800\text{m}^3/\text{s}$ と不足しているため、河道掘削を行い流下能力を確保する。

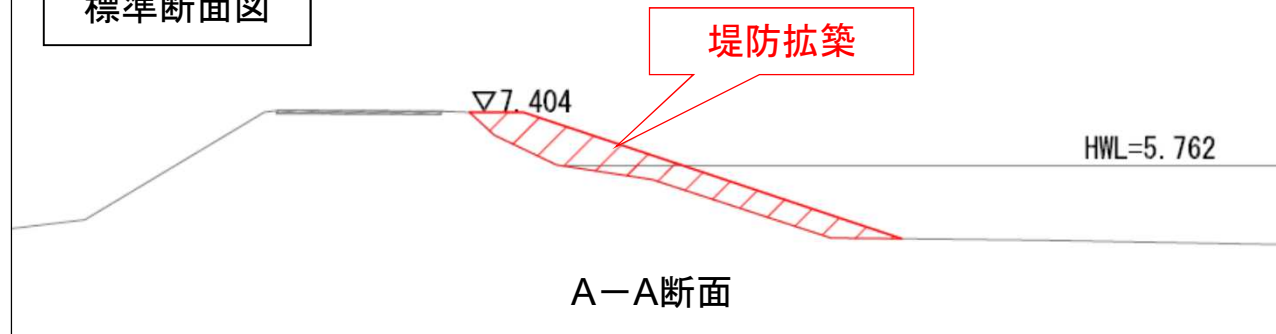


事業概要（下野地区【堤防の安全性の確保】）

人口・資産が集積している福井市街地の浸水被害を防ぐため、治水安全度の向上が必要である。
当該地区（九頭竜川 L6.7k~7.8k）の現況流下能力は、スライドダウン堤防高による評価で計画高水流量（7,000m³/s）に対して不足しているため、堤防断面の拡幅により、流下能力を向上させる。



標準断面図



事業概要（自然再生事業）

○三宅地区（水際環境保全・再生）

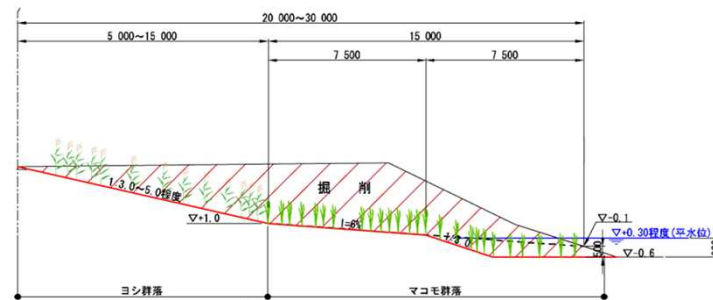
九頭竜川下流域では、河岸侵食により浅場の消失が進み、貴重種のオオヒシクイの餌となるマコモ群落が増加している。そこで、抽水植物群落が増殖できる浅場の造成を行い、多様な生物の生息・生育基盤面積を拡大し、貴重種の保全を図る。

○森田地区（礫河原保全・再生）

砂州の冠水頻度や植生の攪乱頻度の低下による、土砂の堆積と樹林化により、従来の砂礫河原の環境が失われつつある。そこで、増水時に流路となる箇所にお筋を造成し、樹木伐採、砂州の一部切り下げを行い、砂礫河原面積拡大し、砂礫河原特有の動植物の生息域拡大・貴重種の保全を図る。

三宅地区（水際環境保全・再生）

浅場造成工 標準断面図



マコモの生育地盤高であるTP-0.1m～TP+1.0mで設定し、河岸勾配6%、生育幅15mを目安に、マコモの生育基盤や魚類移動環境として、50cm程度の水深を確保が必要なため、平水位TP+0.3mから水深1m以下(90cm)となるように断面形状を設定した。



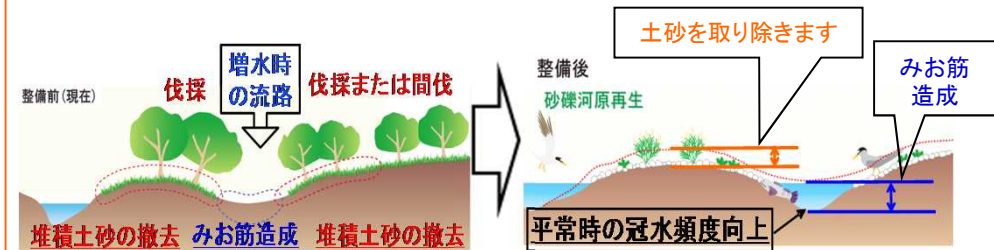
直立化、浅場の減少によりマコモ群落が増加し、その後ムクノキ等が増殖した。



浅場が維持され、マコモ群落が一定規模まで回復した。

森田地区（礫河原保全・再生）

整備の考え方



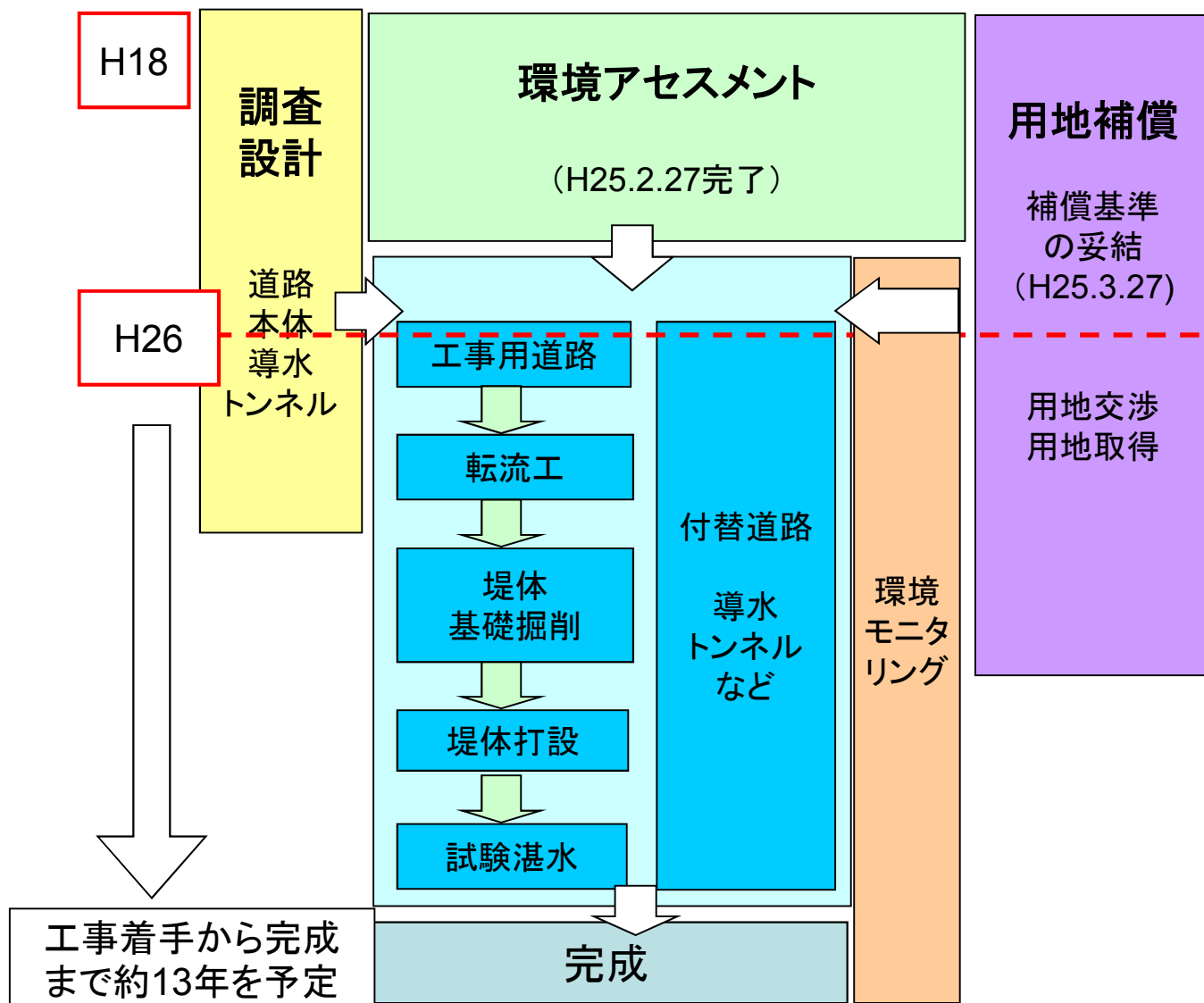
土砂の堆積化と樹林化



砂州の切下げと、自然の営力による砂礫河原再生

事業概要（事業進捗状況）

平成17年度 九頭竜川水系河川基本方針策定
平成18年度 九頭竜川水系河川整備計画策定



事業概要（環境アセスメント）

「足羽川ダムの環境影響評価の手続きを完了」

H25.2.27

足羽川ダム建設事業環境影響評価書の公告・縦覧

～足羽川ダム工事事務所～

環境影響評価法に基づき、九頭竜川水系足羽川ダム建設事業の環境への影響について調査、予測及び評価を実施するとともに、住民や福井県並びに国から意見を踏まえて、「環境影響評価書」をとりまとめ、公告・縦覧を行いました。（縦覧期間2/27～3/27）

足羽川ダム事業の概要

○目的：洪水調節：足羽川、日野川、九頭竜川下流域における洪水被害の軽減

○ダムの諸元等：

位置：福井県今立郡池田町小畑地先（九頭竜川水系足羽川支川部子川）

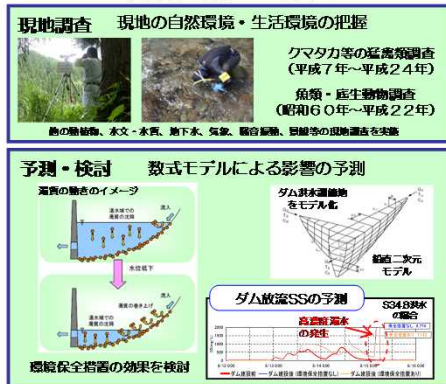
形式：重力式コンクリートダム、総貯水容量：約2,870万m³、貯水面積：約94ha



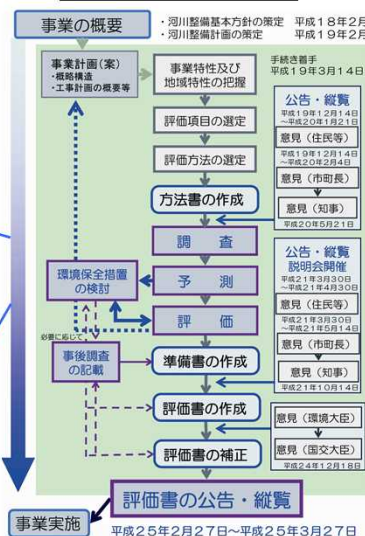
環境影響評価の実施

足羽川ダムの事業の実施にあたっては、事業実施区域周辺が自然環境の豊かな地域であり、クマタカなどの野生生物の重要な生息地・生育地であることから、事業者自らの判断により環境影響法に基づく手続きを実施しました。

環境影響評価の主な内容



環境影響評価の手続きの流れ



環境影響評価の検討

～「足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会」の実施～

環境影響評価の検討にあたり、専門家より指導・助言を得ることを目的として、「足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会」を設置し、検討を重ねました。技術検討委員会は、14名の委員により構成され、計9回の技術検討委員会を開催しました。



委員氏名	担当分野	職 務 等
藤田 秀治	水環境（水質）	福井工業高等専門学校環境都市工学科 准教授
⑨ 藤田 秀治	水環境（地下水の水質）	福井大学大学院工学研究科 教授
藤田 秀治	付着藻類	福井県水生物研究会 会長
藤田 秀治	魚類・生態系	元仁愛女子短期大学 教授
下野 昌子	陸上生態系	日本緑地学会 会長
西田 浩二	哺乳類	福井県森林水産振興課 主任
長谷川 直	爬虫類・両生類・産産目類	福井県再生産産振興委員会 会長
長谷川 直	鳥類（足羽川水系）	日本鳥類保護連盟福井支部長
長谷川 直	鳥類	日本鳥類保護連盟 専門委員
久保 宗子	鳥類	福井県研究家
藤田 秀治	鳥類	福井県環境自然センター 次長
藤田 秀治	産産目類	元仁愛女子短期大学 准教授
藤田 秀治	植物・生態系	元福井市自然史博物館 館長
長谷川 直	河川物理環境	京大工学部環境工学系水資源環境研究センター教授

⑨：委員長

事業者が実施する環境保全措置

環境影響をできる限り回避又は低減するとともに、国、福井県及び池田町が定める環境基準等の達成に努めることを目的に、以下のような環境保全措置を検討しました。

クマタカの保全

■重要性
・「種の保存法」：国内希少野生動植物種
・「環境省レッドリスト」：絶滅危惧ⅠB類
・「福井県レッドデータブック」：県域絶滅危惧Ⅰ類

■分布
・本種は、北海道、本州、四国及び九州に留鳥として繁殖する。福井県では、里山から山地にかけて広く分布している。

環境保全措置（工事中）
・繁殖活動に影響を与える時期には、必要に応じて工事を一時中断します。
・低騒音・低振動の工法を採用するとともに、アイドリングを停止します。
・作業員の出入りや工事用車両の運行に配慮します。

アジメドジョウの保全

■重要性
・「環境省レッドリスト」：絶滅危惧Ⅱ類
・「福井県レッドデータブック」：県域絶滅危惧Ⅱ類

■分布
・本種は、中部及び近畿地方の河川に分布する。日本特産である。福井県では、九頭竜川水系や河野川、笙の川に分布するが、年々生息数は減少している。

環境保全措置（ダム完成前（試験放水前））
専門家の指導・助言を得ながら実施計画を策定し、ダム下流河川に濁りからの避難場所を整備します。

ヤマジャクヤクなどの保全

■重要性
・「環境省レッドリスト」：準絶滅危惧
・「福井県レッドデータブック」：県域絶滅危惧Ⅱ類

■分布
・本種は、本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。福井県では、生息地は限られ、個体数が少ない。開発採取の対象となってきたために減少した。

環境保全措置（工事中）
上記の2種のほかに、イワウメズル、エナニウス、ミソハコバ、ミズツババ、ミヤマコバウ、アブノメ、エビモ、イチウキギクについて、移植・補植・表土の置きだし等の環境保全措置を実施します。

環境保全措置（工事中）
掘削面からの濁水を河川に流さないように沈砂池を設置します。

環境保全措置（ダム完成後）
導水トンネルを活用し、水濁川・足羽川から清澄な水を導水します。

河川環境の保全

・「環境基本法」：河川IA型
浮遊物質量 25mg/L以下（天神橋上流の足羽川）
・「池田町の水を清くする条例」：水源保護地域（町全域）

環境保全措置（工事中）
足羽川（福井市・池田町）

「足羽川ダム建設事業環境影響評価書」等はホームページでもご覧いただけます。
（足羽川ダム工事事務所ホームページ <http://www.kkr.mlit.go.jp/asuwa/>）

【問い合わせ先】国土交通省 近畿地方整備局
足羽川ダム工事事務所 調査・品質確保課 TEL 0776-27-0642

事業概要（用地補償）

あすわがわ

足羽川ダム建設事業の損失補償基準が妥結

～損失補償基準に関する協定書の調印式を開催しました～

足羽川ダム建設事業に伴い必要となる用地補償等に関し、地権者団体と事業者である近畿地方整備局との間で、損失補償基準（土地の価格等の補償率）の合意に達したことから、協定書の調印式を開催しました。

【損失補償基準に関する協定書の調印式】

開催日：平成25年3月27日（水） 10時30分から12時
場 所：福井県今立郡池田町敷田5-1 能楽の里 文化交流会館

○調印者

部子川ダム対策委員会会長
足羽川ダム小畑地区対策協議会会長
近畿地方整備局長

○立会人

福井県土木部長
池田町長

○調印式は、地権者団体をはじめ、池田町議会より議長ほか関係議員、池田町、福井県、福井市、坂井市、近畿地方整備局の関係者総勢34名のご参加を頂き厳粛に行われました。

○今後は、各地権者等の皆様と用地取得（契約）に向けて、個別の用地交渉に入ります。



協定書の調印



足羽川ダム建設事業に伴う
損失補償基準に関する協定調印式



起業者代表・田村
谷本近畿地方整備局長



地元代表者挨拶



関係者による調印式が
行われました

足羽川ダム工事事務所は、地権者等の皆様の生活再建を第一に取り組み、ダムの早期完成を目指します。今後ともご理解ご協力のほど、よろしくお願いします。



平成25年3月
国土交通省 近畿地方整備局
足羽川ダム工事事務所

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局 足羽川ダム工事事務所
〒918-8239 福井県福井市成和1-2111
TEL 0776-27-0642

池田町・足羽川ダム用地買収

27世帯年度内契約

市町会

池田町の足羽川ダム建設に伴う国と地権者との用地買収契約が、移転対象の68世帯中、本年度中に27世帯で完了する見通しであることが11日、分かった。同日開会した定例町会で本年度一般会計補正予算案にダム生活再建見舞金2100万円を計上した。

用地買収については3月、ダム建設に伴い損失する個人財産を補償する際の基準が国と地権者団体の間でまとまり、年度一般会計補正予算案で完了世帯が予想を上回る見通しとなり追加計上した。定例町会は会期を13日までの3日間に決定。本年度一般会計補正予算案で完了世帯が予想を上回る見通しとなり追加計上した。

完了世帯が予想を上回る見通しとなり追加計上した。定例町会は会期を13日までの3日間に決定。本年度一般会計補正予算案で完了世帯が予想を上回る見通しとなり追加計上した。

福井で足羽川ダム推進協

来月、初の用地買収

足羽川ダム池田町建。設に伴い移転対象となる5区68世帯をはじめ地権者に対し、国土交通省が今月来から補償金の提示を始め、用地買収の交渉に入る。21日分かった。9月中旬には最初の用地買収契約を締結する見込み。長、同町の賞金幹雄副町

同省、同町で5区68世帯をはじめ地権者に対し、国土交通省が今月来から補償金の提示を始め、用地買収の交渉に入る。21日分かった。9月中旬には最初の用地買収契約を締結する見込み。長、同町の賞金幹雄副町

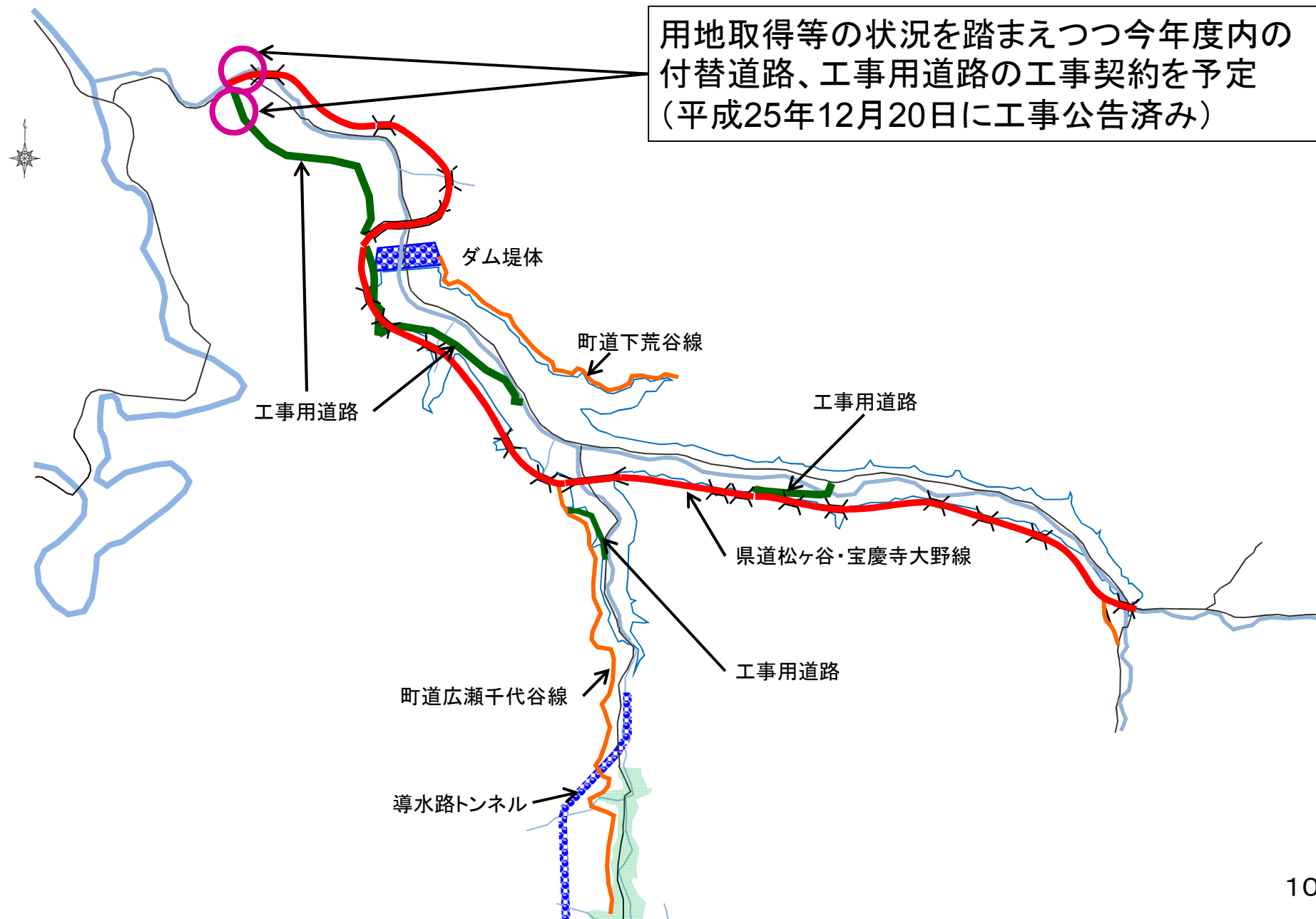
長らが出席。小畑河川部長は「局地的集中豪雨が全国で起きており、治水対策の重要性を感じ、足羽川ダム事業の役割は非常に大きい」とあいさつした。会合は冒頭のみ公開された。終了後の近畿地方整備局の説明によると、用地内への集移転先について、引き続き移転希望者や関係自治体と協議して必要な手続きを進め、できる限り早く確定させることとした。

ダム建設は用地買収の進み具合を踏まえ、本年度内に工事用道路や付け替え道路の着工を目指すことを確認した。協議会は2006年10月、ダム事業の進め方の確認、水没予定地域の生活再建や町振興策など地元要望の連絡調整を目的に設置された。

（2億2706万円）な、災害時の避難拠点施設となる町内5カ所付託。和田義則議員ら3人が一般質問した。同予算案には財政調整基金積み立て（1億9千万円）や町役場のパソコンの買い替え（1029万円）が盛り込まれた。

補償基準の妥結後、説明会、個別交渉を実施し、H25. 8月に第1号となる契約を結びました。

事業概要（付替県道等の整備）



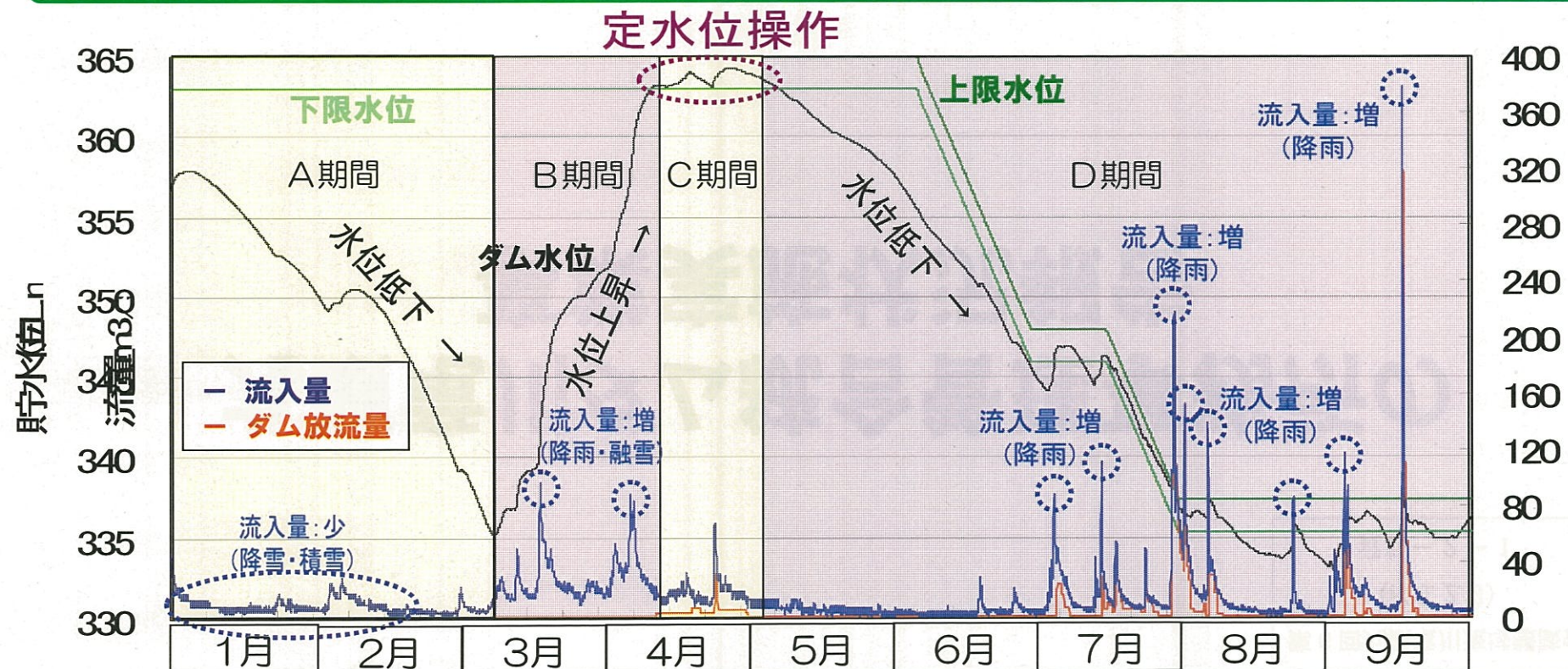
九頭竜川ダム統合管理事務所の 事業実施状況報告

国土交通省 近畿地方整備局

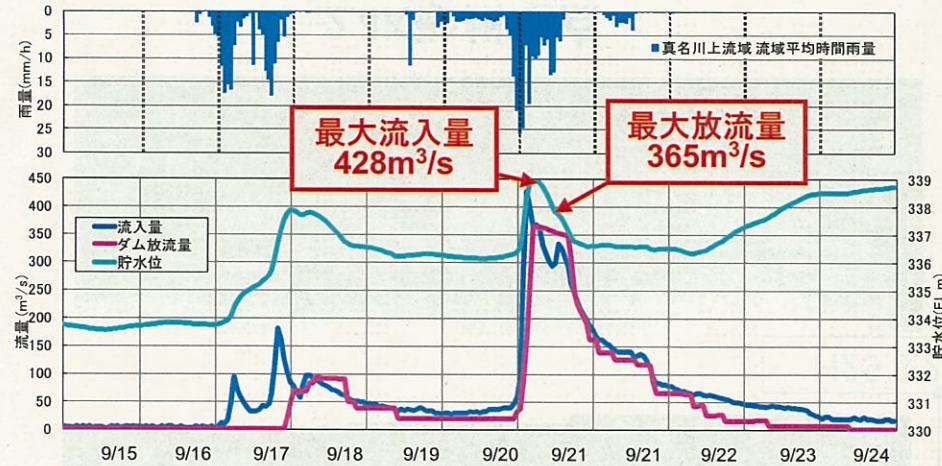
平成25年真名川ダム 貯水位管理について(1月から9月)

●平成25年真名川ダムの貯水位管理について(1月1日から9月30日まで)

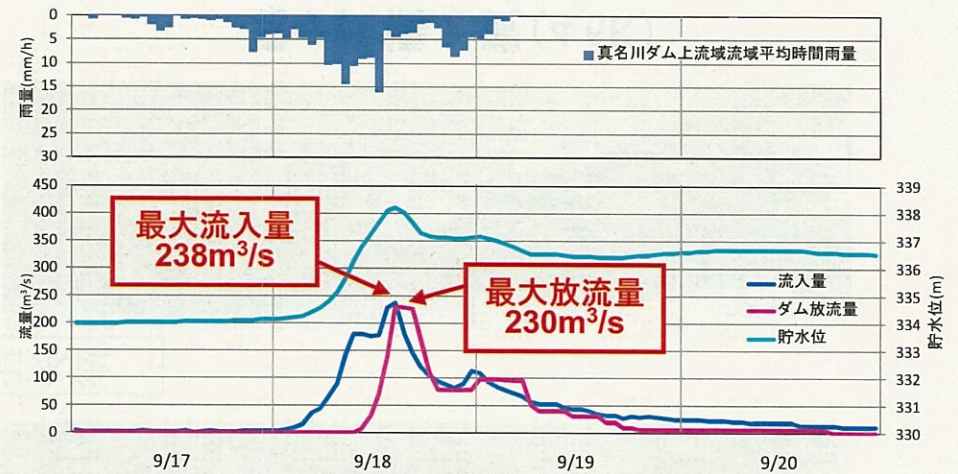
- (1) A期間[1月上旬～ 3月上旬] 発電取水による水位低下(積雪による流入量減少)
- (2) B期間[3月上旬～ 4月中旬] 降雨・融雪等による水位上昇
(防災体制：4月12日～5月1日 20日間) H24は34日 過去10年平均
体制日数:20日
- (3) C期間[4月中旬～ 5月初旬] ダム操作による定水位操作(常時満水位365m以下)
- (4) D期間[5月初旬～ 7月末日] 発電取水、ダム操作による水位低下
[8月1日～ 9月30日] 洪水調節容量が最大の期間



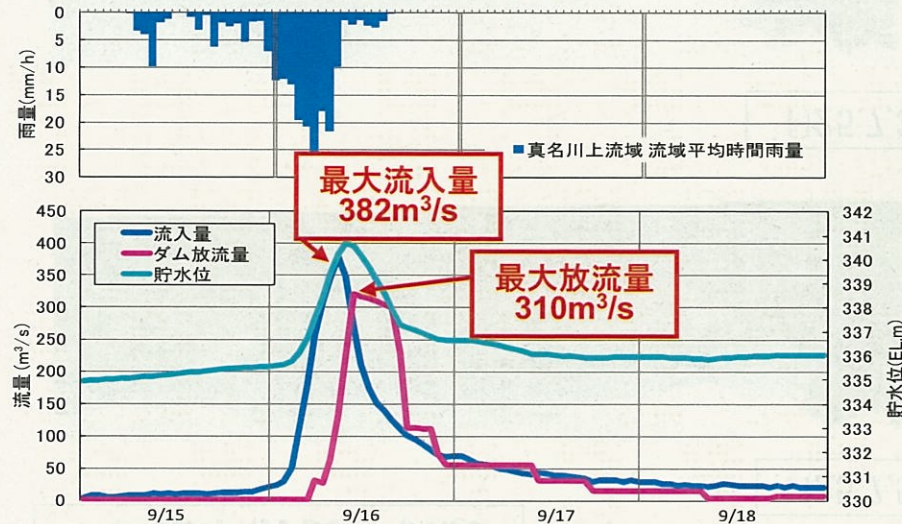
主要出水の状況（真名川）



平成23年 台風15号による出水



平成24年 前線による出水



平成25年 台風18号による出水

歴代ダム放流量のピーク流量順位 (真名川ダム完成以降)

順位	発生年月日	ダム放流量 (m³/s)	流入量 (m³/s)	備考
1	H1.9.7	479	404 (536※)	秋雨前線
2	H23.9.21	365	428	台風15号
3	H10.9.22	344	469	台風7号
4	H25.9.16	320	382	台風18号

※流域流出量

平成25年度 出水状況（真名川）

7/30出水前後の状況

H25.7.5:出水前

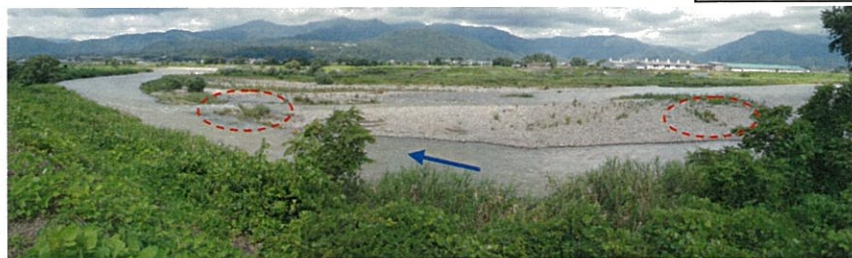


ダム放流量ピーク流量: $213\text{m}^3/\text{s}$

H25.7.30:出水中



H25.8.2:出水後



2.4K砂州地点

君ヶ代橋上流(4.6K)

・出水($200\text{m}^3/\text{s}$ 規模)後に一部分で砂州の浸食や植生の流出が確認できる。

平成25年度 出水状況（真名川）

台風18号による出水前後の状況

H25.9.6:出水前



ダム放流量ピーク流量: 320m³/s

H25.9.16:出水中



H25.9.20:出水後



2.4K砂州地点

君ヶ代橋上流(4.6K)

・出水(300m³/s規模)後に砂州の浸食・土砂の堆積や広範囲での植生の流失が確認できる。

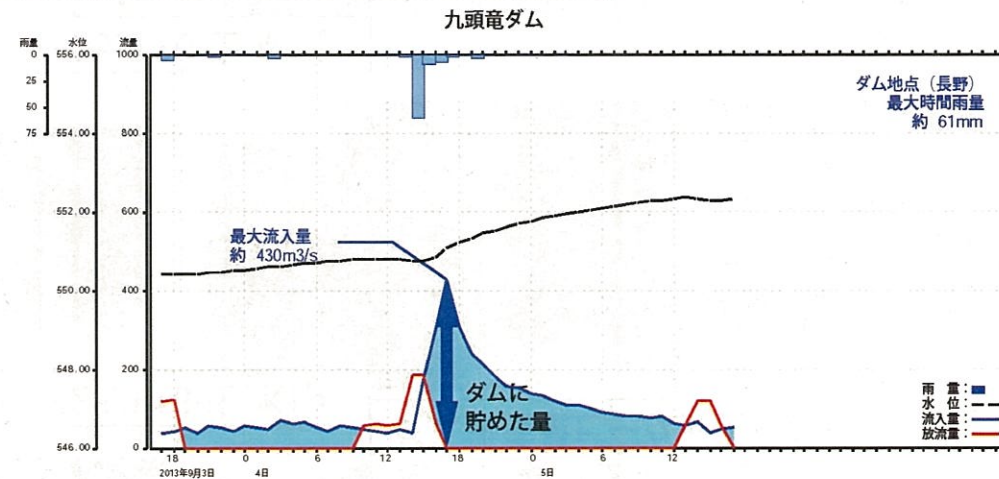
九頭竜川水系 九頭竜ダムの効果(平成25年9月 前線)

- 九頭竜川水系九頭竜ダム上流域において、9月4日から5日まで、総雨量95mm、時間最大雨量が61mm（長野雨量観測所）となり、ダムへの流入量が今年度最大となる約430m³/sを記録した。
- ダムの空き容量が十分に確保されていたため、流入量の全量を貯めることにより、下流の洪水被害の軽減を図った。
- ダム下流の中角地点（福井市中角町付近）では、約0.5m程度の水位を低減させる効果があったものと推定。

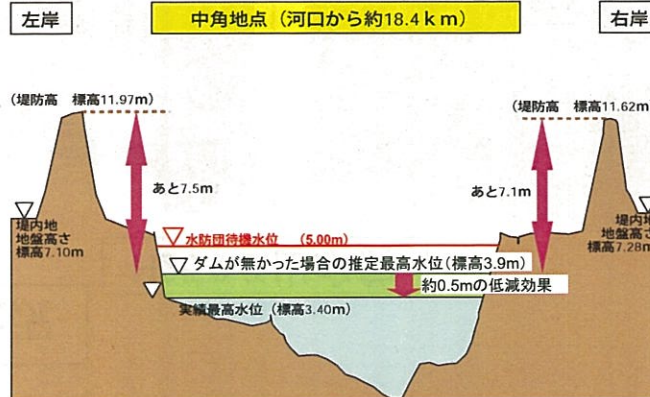
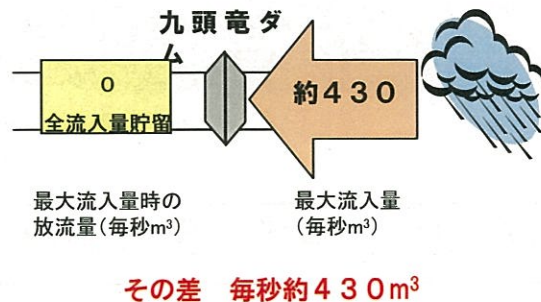
位置図



中角地点における水位低減効果



ダムによる洪水調節



中角地点の水位
ダム整備前：3.9m
ダム整備後：3.4m
→約0.5mの水位低